舞鶴小学校児童用スクールプラン
「ふるさとを愛し、羽ばたく子に」
について

ふるさとを愛し、羽ばたく子に

◇「生まれた生命」を大切にする
・「あぶない」をよそうする
・「あぶない」からはなれる

○「富士を仰いで育む」「思い遣る心」
・あいさつと「おもいやりの言葉」がけ
・良いこと正しいことを進んで行う

○「新たな歴史刻む学舎」で「新たな学び」
・先生や友達の話を良く聞く
・考えて、つないで言葉で言う文字で書く

○「人の傘」となる「心」と「健康な体」
・はやね、はやおき、あさごはんとトイレ
・体を動かす、よく遊ぶ、そうじをする

◎友の手を引く
◆三つのぼうりょくきんし
①「力」のぼうりょく
・ふざけて、たたく・ける
②「言葉」のぼうりょく
・悪くち、かげぐち、ひそひそ話
③「集団」のぼうりょく
・仲間はずれ、さべつ

舞鶴小学校　校歌

作詞・作曲　宮沢和史
編曲　　長田直也

緑の杜に　生まれた生命
富士を仰いで　育む心

新たな歴史　刻む学舎
羽ばたいてゆこう
舞鶴のように

雨が降る日は　人の傘となり
風が吹く日は　友の手を引く

溢れる夢を　描く青空
羽ばたいてゆこう
舞鶴のように

溢れる夢を　描く青空
羽ばたいてゆこう
舞鶴のように

みなさんは、舞鶴小の校歌をしっていますか。とても素晴らしい歌ですね。みなさんには校歌のように「羽ばたく」子になってほしいとねがっています。では、どこで「羽ばたく」のか考えたことがありますか。私は、学校はもちろんのこと、みなさんのすんでいる「ふるさと舞鶴（相生地区・穴切地区・春日地区）」だと思います。それは、「ふるさとという場所からでていく」といういみではありません。みなさんの中には、大きくなったら自分の地区で活躍する子もいるでしょうし、あるいは県外や外国で活躍する子もでてくるでしょう。つまり「羽ばたく」とは、小学校では「卒業」となりますが、長い間を考えれば、「自分のことは自分できめて、しっかりとせいかつできる大人、つまり成人であるとか社会人になること」だと思います。

そこで、卒業生や成人あるいは社会人にむけて「羽ばたく」ためには、どんな準備をしたらよいのでしょうか。私は、みなさんに「舞鶴小の校歌」にあるような小学校生活を送ってほしいと思います。

まず歌の最初の部分をみてください。この世で何よりも一番大切で尊いものは「命」です。「生まれた生命」を大切にしてください。次に、「思い遣る心」をじっくりと育ててください。とりくみ方は、「・」でしるしてあります。また、「学舎」とは「舞鶴小」のことです。舞鶴小でしっかりと「学び」ましょう。学校での授業を通して、「○○して学んだら学び方が分かったよ。今まで分からなかったことが分かったよ。学ぶことは楽しいね。またやりたいな。」という「学び」をしてください。また、歌のまん中の部分にあるように、「人のために何かできる人」になるために「心と体」をきたえましょう。

最後に、「友の手を引く」子とはどんな子でしょうか。友達と仲良くできる子、友達の気持ちを考えてあげることのできる子だと思います。そのためには、学校でも家でも３つの暴力は絶対してはいけません。一つは、「力」の暴力です。ふざけて、調子に乗ってとたたいたほうは楽しいかもしれませんが、たたかれたほうは楽しくありません。また、陰口やひそひそ話のような「言葉」の暴力については、他人に聞かれては困るような話をする必要はありません。意見があるのであれば、学級会などで出せばよいのです。仲間はずれや差別などの「集団」の暴力もいけません。直接体への被害はありませんが「友達の心」にいやな思いとして深い傷を残します。だれかが仲間はずれをしていたら、見ていないで「ダメだよ」といってあげましょう。いえなかったら、はずかしがらず先生やお家の人など、まわりの大人に相談しましょう。

これからの学校生活の中で、いつも校歌を思い出して、「校歌のように取り組んでいるかな？」と考え実行してください。その積み重ねがあれば、みなさんが大きくなったとき、舞鶴小や地域の景色、友達の顔などを思い出しながら、たくさんの思い出を胸に、「ふるさと」を愛し、「ふるさと」に誇りをもってあゆむことのできる素敵な人になっていると思います。

校長先生より

舞鶴小学校保護者の皆様へ

児童用スクールプラン「ふるさとを愛し、羽ばたく子に」について

学校長が、一年間の学校経営を表したものが「スクールプラン」ですが、これは保護者、地域の皆様に「舞鶴小の教育」についてご理解いただき、子ども達の健全な育成に向けてご指導とご支援をいただくためのものです。
これとは別に、子ども達向けに作成したスクールプラン「ふるさとを愛し、羽ばたく子に」をお配りします。子ども達には、都度話して参りますが、子ども達自らが将来の姿を見いだし、それに向かってあゆむために必要と思われる学校での姿を校歌に重ね合わせて作成したものです。ご家庭でご一読いただき、低学年では、お子さんに咀嚼してお伝えていただければ幸です。

さて、本校の校歌は既にご存じだと思いますが、とても素晴らしい「詩（うた）」であると思います。歌詞の繰り返しにあるように「羽ばたく」子になって欲しいと心より願います。

どこから「羽ばたく」のか、私は、学校はもとより、学校の礎である「ふるさと舞鶴（相生・穴切・春日）」から、と思います。それは、「ふるさと」を捨てるという意味ではありません。将来、自らの地区に残る子もいるでしょうし、或いは「ふるさと」を巣立って県外や外国で活躍する子もいるでしょう。「羽ばたく」とは短期間では「学校からの卒業」となるでしょうが、人生という長い期間を当てはめるならば、最終的には「自立した社会人としての成人になること」だと思います。
子ども達が大人になって、どこで、どのように過ごしていても、小学校の校歌を口ずさみ、ふと「原風景」である「ふるさと」に想いを寄せたとき、疲れた時には安心して戻れる場所があることを胸に、自分の「ふるさと」を愛し、「ふるさと」に誇りを持ってあゆむ人になってほしいと願っています。

どのように「羽ばたく」のか、私は、子ども達に「舞鶴小の校歌」に示されたことに取り組んで欲しいと思います。即ち、校歌が子ども達にとっての「スクールプラン」なのです。
まず歌詞の一番にあるように、何よりも一番大切なものは「命」です。「生まれた生命」を大切にしてほしいと願わざるを得ません。東日本大震災の教訓を胸に、また、終焉を見ないコロナウィルスの猛威から、自らの命と健康を守るために、子ども達には、いわゆる危機回避能力としての危険を予知する力、危険から自分の命を回避する力をつけてほしいと思います。
次に、富士を仰いで育む「思い遣る心」を醸成するためには、挨拶や「思いやりの言葉」がけを大切にして欲しいということです。ご家庭では親として、地域では大人として、子どもたちに声をかけてあげてください。そして、大人として、子どもたちに正しい行動を教えてあげてください。
また、「学舎」での「学び」は、子ども達が成長する上で必要な「知と価値」を学ぶことです。本年度から、新学習指導要領に基づいた「学び」を行っていきます。この「学び」では、先生や友達の話を聞くこと、考えて、つないで自分の言葉で言ったり書いたりすることが大切です。
さらに、他者を思い遣る心と健康な体がなくては、「人の傘」にはなれません。健康を維持するためには、「早寝・早起き・朝ごはん・朝トイレ」がまずは大切です。ご家庭でのお子さんの様子はどうでしょうか。遅寝、ギリ起き、朝ごはん抜き、トイレ抜き、のお子さんはいませんか。ぜひ、規則正しい生活を送ることができるよう、ご協力をお願いいたします。また、テレビやゲームは、ほどほどに、しっかりと体を動かして心と体のリフレッシュをさせてあげてください。
最後に、「友の手を引く」子は、学校はもちろん、家庭でも大切にしてほしい部分です。「友の手を引く」ためには、３つの暴力を禁止します。一つは、文字通り「力」の暴力です。ふざけて・調子に乗ってと叩いたほうは楽しいかもしれませんが、叩かれたほうは楽しくありません。また、陰口やひそひそ話のような「言葉」の暴力も、そもそも他人に聞かれては困るような内容の話をする必要があるのか、ということです。仲間はずれや差別などの「集団」の暴力については、直接体への被害はありませんが「心」に深い傷を持たせることになることは、十分理解できるものと思います。

「ふるさとを愛し、羽ばたく子に」は、全ての子どもが、相手をリスペクトし、明るく温かい雰囲気の中で、短所を補いながら自らの良さを伸ばし、地域・社会に貢献できる社会人の素地としての「思い遣る心」を醸成しながら、「知・徳・体」のバランスのとれた健全な子どもたちを育成したい、という願いを込めた「子ども達向けのスクールプラン」なのです。
保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、昨年度にも増して、本年度の本校教育へのご理解とご協力をお願いいたします。「全ては、子ども達の笑顔のために」

令和４年４月吉日

甲府市立舞鶴小学校
校 長　小 林 史 治